

稲積中学校区 小中一貫した教育グランドデザイン

稲積中学校 稲積小学校 新発寒小学校

札幌市の「小中一貫した教育」の目的

「自立した札幌人」の実現に向け、義務教育段階において
「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実を図る



全市共通で推進する「二つの柱」

①課題探究的な学習

②発達の段階に応じた継続的な子供理解

札幌市の「小中一貫した教育」推進の四つの視点

①

②

③

④

9年間を通した子どもの
学びのつながり

子ども理解・生徒指導の
連続性

教職員の連携・協議

家庭や地域との関わり

組織図と学校教育目標



稲積中学校区・目指す15歳の子ども像

学んだことを活かし 相手の立場に立って支え合う 健やかな人

地域の実態・願い

稲積公園をはじめ、多くの公園があり、子どもたちが伸び伸びと生活できる地域である。スクールガードや交通ボランティアなどボランティア活動にも積極的であり、家庭や地域が学校に対して協力的で、共に子どもたちを育てていこうという一体感がある。保護者や地域からは、子どもたちが「健やかにやさしく育ってほしい」という願いが感じられる。

子どもの実態

素直で相手を思いやることができ、他の子の困り感を受け入れられる子どもたちが多く、興味や向上心を持ってまじめに努力する子どもが多い反面、自分の良さに気付いていない子どもや、ねばり強く課題に立ち向かうことが苦手な子どもたちも見られる。家庭学習やICT機器利用など、家庭での時間の使い方に差がある。

二つの柱と四つの視点を踏まえて考えられる教育目標

目指す教育

知

- ・主体的に学ぶ力の育成
- ・自ら課題を持ち、ねばり強く解決する力の育成
- ・授業の中で根拠を示して自分の考えを整理する力の育成
- ・仲間と協力しながら問題を解決する力の育成

徳

- ・思いやりと笑顔で感謝の気持ちを持ち、自他を尊重する心の育成
- ・集団の中で自己肯定感を感じる心の育成
- ・困難に、立ち向かう心の育成

体

- ・体力・運動能力の向上への意欲・関心を高める力の育成
- ・食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるとともに、主体的に健康な生活を送ろうとする力の育成
- ・生命・性に関する正しい知識を持ち、正しく行動する力

具体的な取組

二つの柱と四つの視点を踏まえて考えられる具体的実践			
知	徳	体	
* 目指す教育を踏まえた9年間の取組 発達段階に応じた a 小1～小4 b 小5～中1 c 中2～中3 の具体的な取組			
a b c 課題探究的な学習の充実 a b c 基本的な学習ルールの定着 へ向けた取組 a b c キャリアパスポートの規格 統一に向けた連携 a b c 発達段階に応じた一人1台 端末を学習に生かす指導の 充実、情報交流 b 小中相互研修を含めた授業 見学会等の実践	b 小中情報交流会 b 新入生中学校見学会の充実 b 生徒会活動と連動させた中 学校説明会 a b 生活のきまりの共有と定着 a b c 目指す15歳の子ども像に せまるための子ども理解の 交流 b c 児童会活動と生徒会活動の 連携 (オンラインを活用した交流会等) b c 中学校合唱発表会を含めた 部活動見学の充実	a b c 休み時間の運動推奨 a b c スポーツテストのデータ交流 a b c 各校の特色を生かした運動の 推進と交流、地域に根差した運 動の開発 a b c 食育に関する指導の実践交流 等の連携 a b c 性に関する指導の連携 a b c 性の多様性に関する教員間の 交流	

令和6年度のスケジュール											
管理職会議→ 管 実務担当者会議→ 実											
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
管3		管1 実1				実2	管2				実3
管1 ：年度初めの顔合わせ会議（グラウンドデザインの確認、および行事予定の確認等）＜今年度以降稲積中主幹＞ 実1 ：年度初めの顔合わせ会議（実践事項の日程調整および次回会議の内容確認等）＜今年度以降稲積中主幹＞ 実2 ：実践事項の実施要領等の細案作成に向けての打ち合わせ＜今年度以降新発寒小主幹＞ 管2 ：各校の連携確認、各校の課題の調整協議＜今年度以降新発寒小主幹＞ 実3 ：年度末評価と次年度以降への課題および実施予定の連携事業の実施時期の確認＜今年度以降稲積小主幹＞ 管3 ：実3を受けて、評価・課題・次年度実践事項の確認と協議＜今年度以降稲積小主幹＞											
今年度の主な取り組み（予定）											
A 課題探究的な学習 B 発達段階に応じた継続的な子ども理解											
A 札教研事業	6月		新発寒小		授業参観及び交流会						
A 中学校授業見学会及び 新入生中学校説明会	9月（小6児童対象）		稲積中		子どもたちの感想を集約 →中学校へ						
B 合唱発表会	10月		稲積中		小学校児童招待						
B 小中生徒指導情報交流会	11月		新発寒小（稲積小と隔年）		不登校、問題行動への対応・指導 等の共通理解・研修						
AB 新入生保護者説明会	2月		稲積中		新入生保護者への学校説明						
B 子供理解引継ぎ	3月		稲積中		学習状況・生活状況等の引継ぎ						

令和6年度の評価・次年度への課題
次ページに記載

令和6年度の評価と次年度へ向けて（稲積中学校区）

連携事業	実施時期	実施内容	評価	今年度の反省と次年度への引継ぎ事項	次年度
（１）体験授業・授業参観等の学習に関して					
春の札教研事業での授業交流	６月	新発寒小にて授業参観・交流会を実施した	○	新しい取り組みの初年度として、今後の方向を示すような形であり、有意義な授業参観と交流会となった。今後も授業校の負担が大きくなりえない授業公開の在り方、協議のテーマや話し合いのもち方などを検討していく。	継続
中学校生徒対象授業見学会	９月 ２月	中１・２の授業を小６児童に公開 見学後、中学校の学習、生活、部活等の説明を中学校の 教員と生徒会役員の生徒で行った	◎	今年度は稲積小・新発寒小の見学会は９月、富丘小は２月と別日程で行った。６年生にとっても、引率する教師にとっても良い機会となっている。小学生の質問に中学校の生徒会役員が答える形を今後も継続したい。	継続
（２）児童・生徒の交流					
合唱発表会の鑑賞	１０月	稲積小学校６年生が中学校１年生の発表会を見学	◎	授業見学同様、中学校の雰囲気を知る良い機会となっている。今後も見学（交流）の在り方について、無理せずよりよい形を模索していきたい。	継続
児童会・生徒会交流	９月	小学生の中学校授業見学会で、生徒会役員が説明する 場を設けた	◎	生徒会の生徒が自分たちで運営している姿を見ることが６年生にはよい刺激になっており、６年生の安心にもつながっている。今後もぜひ継続していきたい。	継続
さっぽろっ子サミットに向けた交流	６～７月	生徒会役員２名が小学校に訪問し児童会と意見交流を 行った。	○	今年度は児童会と生徒会の直接対面での交流が実現したが、交流時間・場所の調整が難しい中での実施であった。次年度は年度当初に実施時期や場面を相談して決めていき、３校一斉に MEET を活用した形で交流したい。	継続
（３）教員の交流					
小中情報交流会	１１月	学習・生活指導の手立ての情報交流	○	教職員が互いの学校や教員を知るよい機会となっている。５，６年生の先生限定である必要はないかもしれない。春の札教研事業と内容が重なる部分があり、場合によっては済み分けが必要かもしれないが、今後も継続したい取組である。	継続
生徒理解・情報交流	３月	例年通り実施（予定）	◎	安心して中学校に進学できるように、今後も生徒理解・情報共有を継続していく。	
（４）保護者・地域との交流					
中学校新入生保護者説明会	２月	学校紹介（標準服チラシは小学校で先に配付予定）	◎	標準服の採寸時期の関係で、チラシを小学校で配付してもらっている。案内配付が１２月、説明会が２月なので、小学校から１週間前に「すぐる」でアナウンスしてもらった。説明会は次年度も同様の形で行っていく。	継続
（５）次年度以降の新たな取組					
共通できるものは、３校すり合わせたり、共有させたりしていく		掃除、給食時間の過ごし方・放課後課題の取り組ませ 方・生活・クロームブックのルールなど		まずは中学校から情報提供し、それをもとに徐々に揃えたり交流したりしながら、９年間を通したものにできたらよい。	協議
６年生への模擬授業		６年生が中学校へ行って授業を受けさせていただく、 または、中学校の先生に来ていただき授業をしていただく		中学校の先生に呼びかけた上で、可能であれば行っていく。	協議